

## 日本のヤバい女の子 目次

## はじめに

Ⅰ いなくなる女の子たち

-----おかめ(おかめ伝説) 献身とヤバい女の子 ― 秘密とヤバい女の子 ----うぐいす女房(見るなの座敷) 失望とヤバい女の子 ―― —— 女盗人(今昔物語) 

II キレる女の子たち

--- 飯食わぬ嫁 我慢とキレる女の子 ― 喧嘩とヤバい女の子 ―――― イザナミノミコト(日本書紀・古事記)

III 人間やめる女の子たち

変身とヤバい女の子 ――――― 清姫(安珍・清姫伝説) 贈り物とヤバい女の子 ―――― かぐや姫(竹取物語) 命とヤバい女の子 ―――― 

IV 殺す女の子たち

------ お露(怪談 牡丹燈篭) 靴とヤバい女の子 ―― ★別れとヤバい女の子 -乙姫(浦島太郎伝説) 幽霊とヤバい女の子 お菊(落語 皿屋敷) 王子様とヤバい女の子 ある末娘(猿婿入り)

V ハッピー・エンドの女の子たち

------ 鉢かづき姫 ------ 織姫(七夕伝説) 顔とヤバい女の子 ――― 距離とヤバい女の子 ― 理不尽とヤバい女の子 トヨウケビメ(奈具の社) 女とヤバい女の子 ―――― 女右大将/有明の女御(有明の別れ)

あとがき

おまけ漫画 日本のヤバい女の子・ゴー・道成寺

この小冊子では、★のついた頁を収録しています。

5月末刊行の完全版『日本のヤバい女の子』もぜひ手にお取り下さい。



## 仕事とヤバい女の子 ―― 鬼怒沼の機織!



なのだから。 続けたい。誰の言葉にもどんなセオリーにも邪魔させない、 新卒で入社して五年目、 最近仕事がとても楽しい。 天職だと思う。 だって私の「ライフ」と「ワーク」 生きている限りこの仕事を

<u>る</u>。 では美しい天女様が一人で機を織っている。天女様の機織りを邪魔すると恐ろしい祟りがあ あることがすぐにわかった。「川俣には、 ……からり、とん、 暖かく、 栃木県 が咲き乱れる沼地に迷いこんだ。見覚えのない場所だったが、 子どもの頃からそう聞かされて育ってきたのだ。 花の甘い匂いが広がる。 に住む弥十という若者が山道を一人で歩いてい からり。 弥十はいつしかうとうとと眠りこんでしまった。 鬼怒沼という美しい天空の沼がある。 しかし良い陽気である。 弥十にはここが鬼怒沼で b つのまにか道に迷 ぽかぽかと 沼のほとり

2

が機を織っていた。 何か、 物音がする。目を覚まし周囲をうかがうと、 とっさに身を隠す。 まちがいなく天女様だ。 弥十が眠っ なんて美しく、 ていた岩のすぐそばで誰 幸せそうな

張で唇が乾く。 祟りに遭うぞ。 横顔だろう! 舐めても舐めてもかさついてしようがない 自分に言い聞かせるが体が言うことをきかない。 おさえようのない気持ちが弥十の中に湧きあがる。 ふらふらと立ち上がる。 けない。

## て、天女様」

乳房を辿る。 機の音がやみ、 気づくと、 乳房の上の白い首を。 少女の腕を掴んでいた。 少女は動きをとめてい 首の上の、 た。 にわかにあたりが静 弥十のまなざしは腕から肩を伝い、 美しい顔を かになる。 からり、 ٤ 着物に透け とい Ž

向かって少女が機織りの杼を投げつけた。 間の腕力ではない。 噴き出る。 その顔は怒りに満ち満ちていた。 機織姫の姿は消え失せていた。 ようやく我に返り必死で走り出したが、もう遅かった。 次の瞬間、 顔面にもろに食らい、 弥十はもの凄い力で投げ飛ばされ 倒れこむ。 逃げ惑う弥十 額から赤い血 てい た。 12

ない。ただその手に美しい杼だけを握りしめていた。 その日の夕方、 弥十は血と泥にまみれて帰ってきた。 何を聞 5 てもぼん やり して要領を得

弥十はどんどん衰弱し、 やがて命を落とした。 村人は機織姫の祟りだと囁きあった。

てもバチギレである。 鬼が怒ると書いて鬼怒沼。 彼女の怒りを現代に置き換えると、 「鬼」と「怒」の字は後に当てられたと言われているが 次のようになるだろうか それ





ずに手を動かしていた。彼女が天女なのであれば、 ると祟りがあること。 彼女の出自はよくわからない。鬼怒沼に住んでいること、 機織姫は一心不乱に働いていた。 なぜここに一人で住んでいるのか、織った生地をどうするのかも伏せられている。 だが 、あたり一面すばらしい景色が広がる楽園のような場所で、機織姫はピクニック 機織姫の設定はこれだけしか明かされていない。 働く理由というものは人それぞれだ。人の数だけ働 労働しなく 一人で機を織っていること、 ても飢えることはないはずなのに、 なぜ機織りをし でく理 てい 邪魔す f 由

の精神が、織り機を絶え間なく動かしていた。 ライフワークであればその人生が、 しぶ取り組んでいたのかは定かでないが、 ぶよう誘導され 機織りが古 い時代から女性の仕事だったというのは定説だ。バウハウスでは女生徒は たという記録もある。 遊びたいのを我慢して生活のために働い 機織姫が自分の仕事を気に入っていたのか、 とにかく彼女は働いていた。 機織りが彼女にとっての ているのであれ それとも 織物 じぶ を学

かしそうではなかった。よく知らない人物は腕を掴んだまま、彼女をうっとりと見つめ、「天女様」 ではない じろと視線を送り、 そこへ突然よく知らない人間がやってくる。ろくに話したこともないその いだ」とか言った。 のメンテナンスに来た人であれば。そして、彼女の仕事に関係する話題であれば。 この 人間が彼女の仕事に関係する人物ならよかった。 不躾に体に触れる。機織姫はとても困った。腕を掴まれたら作業ができない\*\*\* 投げかけられたのは仕事とも人生とも精神とも全く関係ない 反物屋さんとか、呉服屋さん 人間は物陰 からじ

## 姿や佇まいへの興味だった。

ことにエンカウントするのは突然 ントに遭遇すること。 思い当たるふ しがないでもない、 不当に邪魔されたり疎外されたりすること。 の交通事故に遭うようなものだ。 という人もいるかもしれない。 仕事の内容と関係のない 毎日 の暮らしの中でこういう コ メ

誇りであり、 女は仕事を邪魔されたとき、 機織姫は杼をぶん投げて邪魔者を払い 武器だったのではないかと私は思う。 仕事のための道具で反撃した。 のけた。杼とは緯糸を収めた、 彼女にとっ 棒状の小さな道具だ。 て機を織るという仕事

反撃を受けて、 と緯糸の重なる ているだろうか。 伝承されていくうちに枝分かれし派 しているのだろう。 機織姫 一目一目がもう見られないとすれば、 幸福でいてくれれば私はどちらでも構わない。 の方が姿を消したというエンディングもある。消えてしまっ 今も織り機に向かっているだろうか。 生した 『鬼怒沼の機織姫』のバ こんなに悲しいことは だけど彼女の織っ それともまったく別のことをし リエー ショ な 5 ン た生地の経糸 た彼女はどこ 12 は

7

## \*

になっ てい が機織姫の美しさではなく彼女の織った生地に たかもし れない つい て話しかけてい n ば 次のよう

一番最初に織ったもの、 ここはもっと流れのある構成にした方がよくない? してもよい発色ですね。 れな 7 ジでイケてますね! 見てみたいな。 一緒に何かできれば嬉しい どこからイン スピ な。 こういう風にした意図を聞い  $\nu$ もうこの仕事を始めて長い ションを? 門外漢の意見だ ても?

ぼろに疲れ果てた弥十が帰ってくる。 そのどれもがこの世のものと思えないほどエポックメイキングなのだった。 い意匠の前 に 興奮は尽きず夜が更けてい 彼の手には二人が意気投合して作ったたくさんの試作品が 朝日が昇り、 心配 した家族の元にぼろ





# 別れとヤバい女の子 ―― 乙姫 (浦島太郎伝説)



四六時中、 お元気ですか 海のことを考えてしまう日々 毎年、 五月に入るともう泳ぎに行きたくて居ても立っ です。 魅力的で恐ろしく、 優しい海のことを。 ても いら れな 5 のです。

助けてや 昔む った。 か る 浦島太郎という漁師 亀はぜひお礼をしたいと言って太郎を背中に乗せ、 が 5 太郎はある日、 浜で子供に 海の底の竜宮城へと連れて いじめられ ている亀を

10

なにかと世話を焼い と豪華な食事、 竜宮城は今までに見たどんな場所 となりには素敵な恋人。 れる。 いつしか二人は懇意になっていた。 より 夢のように幸福な日々だった。 も美しかった。 乙姫という女性が太郎をもてなし、 きれいな着物、 うまい酒

この玉手箱を持っていって。 太郎は元来た海を亀に連れられ、 たいと乙姫に告げる。 と気づく と三年が経っていた。 乙姫は悲しみ、 でも決して蓋を開けて中身を見ない 太郎は故郷に残してきた家族が心配に 懐かしい浜辺に降り立った。 去り行く恋人に手土産をひとつ渡した。 でね なり、 度里帰



なか た村人を捕まえ 憶にあ 0 て言う るも か 12 0 の影さえなか が か ない。 L 太郎 5 見覚えのない松林や船着場を通 はここにあった家を知らない か 0 L た。 6 のだ ただまっ が、 どこか さらに均い お か かと尋 された地面 L って家へ向かう。 ねた。 憶 が広が 12 村人 な いも ってい は露骨に怪り だが、 0 がある。 73 そこに 一訝そう は何 か か T 0

何十年もここに住 h で い るけど、 そんなもの は見たことが な い ょ。

てい 箱だけである。身も心も寄る辺のなくなった太郎は乙姫 彼が故郷を発 白い 三百年分の時間 煙が立ち昇る。 ŧ. ふらとどこかへ歩い 幼なじみも、 0 T から、 視界が が一瞬のうちに太郎の みんな死ん 実に三百 T 電かす 5 った。 年 風 が でいた。 経過し がもやを吹き散らすと、 唯一手元に残っ てい 体に刻まれ た。 の言い もうここにはだれ てい 0 つ たのは乙姫に手渡 そこには た。 けを破り、そっ 太郎 ŧ は年老 一人の老人 6 な と箱 され いた姿の い を開 た玉手 かず 立 兄 0 VŤ

12

とエ とリ 浦島 ピ Ź П 太郎 ロ 1 ガ 'n グ にリ は Þ  $\exists$ の変化が顕著だ。 |本で最 メ イクク 手箱を開け を重ね も有名な男のひとりだ。 た太郎 5 なか ń 時代 には「太郎が亀と出会って興奮し、 かず 「鶴になる」 によって様々なヴァージョ 彼 の物語は日 とか 「その場で死ぬ」 本書紀に始まり、 ン がある 即 セ というエ ッ ク 万葉集、 特 スする」 12 ピ プ ロ ロ П 御ぉ という 伽 草子し 1 グ グ

ぎたり、 ・ガテ の罰 ヴ ア きなれ ィ 1 約束を破ることへの戒めだと教わった。 ブ ジョ なことなのだろうか て用 ない ンに共通する。 意されたも スもあるが のなのだろう 子供 の頃、 やは か。 絵本を読み聞 h 「亀を助ける→老人になる」 私たち しか は 年を取 か L せてもらっ 「老人になる」という結末 0 T 5 た時 < が、 という筋書きが には、 5 n この物語 は 罰 にな は本当に太郎 品は遊び過 ほとん 3

腐ら 楽的 を現代風に書き直すと、 に退 Ŕ な時間 せ 0 なん てしま たと感じたり、 な した 三年をどのように過ごしたかちっ n ぜ 0 使 が か ったみた その 「三年 5 0 という間だ。例えば 方でなくても、 それを踏まえて、先人たちが繰り 間 自分だけが変わることができず い。 の記 は同じ会社で働 次のような感じにな まるで三年 憶が全くなく、 ぼんや しか経 私 かないと」と思い込ん は新卒で入社 りしているうちに周りがどんどんイケてる感 b って とも思い つのまに いな ^に時間 返し 出 か二十六歳になっ したブラ 5 のに三百年経っ せな IJ ば 5 で毎日出社 <sup>´</sup>ライ かり経 ッ Ļ ク 企業でち L 0 0 てきたよう てい てお たような気 たように感じたりす して た。 5 い ţ た果物 た。 0 太郎 12 U° 分と言っ 『浦島太郎』 を冷蔵 0) 0 じに たり三年 ように享 め ても

13

活 に全てを捧げ 間 n た魅力を持 ているうち 0 に気気 たパ ワ づ 5 フ jν たら三年 な女の子 かず 経 12 メ 0 T П メ 5 口 になっ この ままではダ T しまっ て、 メ になっ 彼 女との奔放な てしまう

気がして、自分から別れを切り出した。

とも第二新卒とも呼べない年齢でひとり宙に浮いているみたいだった。まるで知らない やりたいことを見つけ してしまっ むような同僚らの表情に囲ま 恋人に夢中になって何年も仕事を放り たのだろうか? ってバリバ れて、 リやっている。子供が 自分が急速に老け 出していた俺に同僚 ていくのを感じる。 産まれたやつも の目は冷たかった。 いる。 俺は、 俺はというと、 若き日々を浪費 友達は皆自分の 人を怪し

思う。 ただし、自分 誘われるままに留まった。 物語 書くとただ青春を棒 の序盤、 の置かれた環境に疑問を感じず、生涯それを楽しみ続けることができるならの話だ 浦島太郎には主体性がなかった。 に振 誰かに導か 0 た男の話のようだが、私は n 保護されて、 亀に誘われるままに竜宮城へ行き、 愛されることはとても快適 これ はこれで成長なの で、 ではない やさし 乙姫に かと

というのも、鶯女房、蛤女房、 れる対象は禁止を言い渡した人物の姿や持ち物だ。 「見ては のパタ に譲渡されている。 いけない」と禁じられたものを見てしまう昔話の ンは古今東西の物語に見られるが、 太郎のものなのに、 鶴女房のように 太郎本人には禁じられているのである その中でも『浦島太郎』 「見るなの禁」では大抵、「見るな」と禁じら なのに、 パ 乙姫が見ることを禁じた箱は浦島太 ターンは 「見るなの禁」 は少 し風変わりだと思う。 と呼ば

た時に 力を模索しはじめた。玉手箱の煙は彼にエイジングをもたらしたが、それは 自分の人生に向けられた。そして、 を不当に進めた」のではなく、 竜宮城に長居して、 った。CはAに似ていたが、彼の目には全然違って見えた。乙姫の魅力で忘れていた彼自 に戻るのであれ 太郎は三年間思考停止していたツケを払い、自分の中身と向き合いはじめた。太郎はどこへ帰 0 分の持ち物を覗きこんで中身を見るというのは自 たのだろう。 は、 間 彼は他人の魔力にただメロメロになるだけではなく、 自我や野心を取 ば故郷はなくなったりしないだろう。たぶん、 A地点からB地点へ来て、元いたA地点に戻ったのではない。 「家族が心配だ」「このままではいけない」と気づいた時、 り戻 「乙姫の影響で止まっていた太郎の時間が進み始めた」の Ļ 「自分の世界に帰りたい」「この関係を変えたい」と言い 彼の精神は老成したのだ。 分の内面を見つめることに似ている。 彼はAでもBでもないC地点に 誰かを魅了するため 「乙姫が太郎の時間 彼 完全に元 の目は初 では の自分 の場 の魔 めて 太郎 いか。 0

れを禁止する乙姫は太郎に しも玉手箱 のか? 乙姫について考えると「なぜ親切にしてくれた(または恋人だった)人物をひどい目 ここまでは男の子の話をしてきたが、女 という疑問が湧きあがる。 を開けることが浦島太郎の自我の芽生えであり、 「自分自身を見つめるな」と言っていることになる。 乙姫はほんとうに浦島太郎を騙そうとしたのだろうか。 の子の方はどこから来てどこへ行 内面を見つめることだとすると、 0 13 に遭わ のだろう。 せ

うにしているのがムカつくというやつだろうか。 を与えまいという気持ちがあったのだろうか。 い思えないのだ。 彼女は別 れを切り出した恋人の足を引っ張ろうとしているのだろうか。 もしかして元カレが Facebook で自分より幸せそ だけど私にはやっぱり、 元カレに成功のヒ 彼女が悪だとはとうて ント

を守っ 途絶えることになった。こちらも現代風に書き直してみると、 は地上 幸にするためだけに整えられた設定だなんて、侮辱である。 竜宮城は浦島太郎 浦島太郎がタイ させるためだけに存在するサブキャラクターではない。 使命、 てやることも、 彼女は海の底へ。 文脈があった。 がや Jν 怒りに任せて抹殺することも、 ってくるずっ П 喜びや悲しみを感じる心もあった。だから故郷へ帰ると言い出した男 偶然出会って一度共鳴した関係は、 jν である以上、 と前から存在していたはずだ。 この物語では彼の変化に焦点が当てられ 一緒についていくこともできなかった。 おそらく、 彼女は決して、 次のようになるかもしれない。 お互いの使命を優先することで 乙姫が一人の男を騙し 彼女には竜宮城での暮ら 男を破滅(または成 る。 だけ て不

とても控えめで物静かな人だった。 るのが嬉しかった。 彼とは長く付き合ったけど、 私はやりたいことがたくさんあって、 終わりは一瞬だった。 それ に彼が賛成

「僕にもやりたいことができたから、東京へ行こうと思うんだ」

私には、 彼と一緒に東京へ行く気は全くなかった。 まだここでやりたいことが山ほどあっ たか



17

たら悲しいなと考えていた。 だけど引越しの荷造りをする彼を見ながら、この人が(もっと早く行けばよかった)と思っ

たはどのみち自分の意思で箱を開けるだろう。 んとうはあなたの成功を心から祈っているけれど、 しれないけど、 が後回しにしていた人生の主題を知ったときに、 どうか、 私は最後に何を言えば彼のこれからのヒントになるかわかっていた。 一緒に過ごした時間を浪費だったと思わないでほしい。 精神的なことについてアドバイスできるだろうと思った。だけと黙っていた。 あんな時間を持たなければよかったと思わない これくらいの意地悪はゆるしてほしい。 私と一緒にいたせいであなた 傲慢だと思われるかも

\*

ちの肌を焼く。歓声が上がる。カラフルな浮き輪。 大な海が悠々と横たわり、昔一緒に過ごした人と私を隔てている。 つめたいラムネの瓶を片手に、波打ち際を歩きながら考えている。 こうして浦島太郎と乙姫の恋は終わりを告げた。 みんな海のことを考えている。 彼女は今も海の底で美しく輝い 砂浜が灼熱に輝き、 もちろん私も T 若い人た いる。 巨

君と過ごした夏を絶対に忘れない。 あれは心から素晴らしい夏だったよね



19



## 虫愛づる姫君(堤中納言物語)身だしなみとヤバい女の子 ――



詩を一行読みたいのだ。 「すっぴんで会社に行くのは社会人失格」というのは本当だろうか? には目も鼻も口も眉もついている。 もちろん化粧したい人はすれば良い。 化粧しなくても、 だけど私はその時間に、 私の顔

蝶を愛する姫君の屋敷のとなりに、 按察がする (地方の行政を監督する要職) の大納言の娘が

「人々は花や蝶を愛するけど、 私にはそれがとても儚く頼りなく思える。

なくちびるから真っ白な歯が見える。両親はそんな娘に戸惑っていた。 かたちを取りつくろうことを嫌い、 に入りだ。 大納言の姫君はそう言って、 よく観察するために邪魔な髪を耳にかけ、 毒々しい虫を好んで集めさせ飼育していた。 絶対に眉を整えず、 手のひらに乗せて可愛がる。 お歯黒をつけなかった。 特に毛虫がお気 笑うと小さ 姫君は姿

キモい毛虫を可愛がってるなんて噂されたらみっともないし……」と言ってはみるが、 お前の言うことも分かるけど、 世間ではやっぱりきれいな娘が好まれるんじゃない かな。



至ることの方が百倍重要だと思う。 1: 何を言われても全然大丈夫。 それより、 毛虫が蝶になるように、 物ごとの本質 なを辿 全ては移り変わるんだから って変化 を観 察 真理

陰口で盛り はうじゃうじゃ 面もあった。 しに話すの の羽 上がっていた。 「女と鬼は 化を見るように促され、 いるし、 両親は姫君の意見を尊重したが、 人前に出ない方が良い がっ て騒げば姫君にじっとりにらまれる。 てんで効果がない。 のだ」と言っ 女房たちは不満を募ら \_ 方で、 て両親にも姿を見せず、 妙にコ 若 5 ンサ メ ン ŧ バ バ テ T は い 1 た。 ブな い 5 つ つ 虫

「うちの姫、やたら賢しらに振舞ってるけどマジきつい」

Ė 毛虫、 毛虫で気が狂 いそうなんだけど。 T か姫の眉毛もほぼ毛虫じ

22

「じゃあ歯茎は皮の剥けた毛虫ってかwww」

「冬も毛虫の毛皮で過ごしたら暖かいんじゃねwww」

「それなwww」と笑うのを、古株の先輩女房がたしなめる

たそんな風に言って 毛虫 が 蝶に変化する過程に興味 別に良い を持つことは実際、 でしょう、 何も毛虫を蝶だと言 素晴らし いことなんだか 5 張 0 7 5 3 わ け

け らを、 女房たち T ひきまろ、 b が怖がる た。 彼らは姫君と一緒になっ いなかたち、 ので姫君は男の子たちに虫を集め いなごまろ、 て虫をテー あまびこなど、 7 に歌を詠んだ。 てもらっていた。 虫にちなんだニックネ 男の子たちは み 4

司 「ご縁があれ と書いた手紙と一緒 るのを女房たちは馬鹿に 右馬佐 が 歌を贈られ 姫君 0 は姫を か近所 の評判を聞きつけた。 は大騒ぎにな が極楽で会いましょう。 の人 たら返歌 ビビ に蛇のカラクリを贈っ らせ k は して笑った。 0 をしなく ゲテモ てやろうと企み、 た。 元気が良く自信に溢 姫君は動揺 ノ好きの姫 てはならない。 虫の姿では一緒に 駆け た。 しな 12 つけた父親が蛇 「あなたを想う心は蛇 0 何も がらも蛇に念仏 b 姫君は汚 T 知らな れ愛嬌がある若者で、 噂するようになっ いられない い紙にカタカ の正体に気づい い姫君が手紙を開けると蛇が飛び を唱える。 のように長く限り から てい ナ で返歌 その声 て騒ぎは収まっ 名を右馬佐とい ある家 を書 が震えて 0 5 御 Ž.

23

見つか 不思議な姿だっ は黒く て様子をう 返歌を受け よく着る赤 0 0 でどぎまぎす 生え揃 てハイテンショ か 取 がう い い った右馬佐はが 袴ではなく、 ちょ る。 着物を頭まで被り、 絶対お っと涼 ンなの 姫君は男の子たちと一緒に大量の毛虫を観察して 白 かし か、 しげとも言える。 ぜん興味を持った。 い袴を身に着けてい ばたばたと走り回り簾から身を乗り出 6 のに、 髪は美し どうに い 目立たない も鮮や ちびるもなかなか素敵だけど、 のだろうが 3 か で魅力を感じ よう女装し 手入れ は L して て屋敷 てしまう。 い T 73 いなさそうだ。 5 る。 を訪 お い それ 若 歯黒が 個体 n 6 は

(想像、 してたよりか わい い じゃ ٨ かなり変だけど、 エキ セ ン } ij ッ クで良 い か ŧ, 化

を懐に仕舞い、 たら化けそうなのにも 毛虫の毛深い姿を目にした時から、 女房たちが右馬佐に気づき、慌てて姫君に簾の中へ入るよう促す。姫君はすぐには納得 男の子に垣根を見てきてもらう。 家の中に駆け込んだ。 ったいないな。 手にとって大切に愛で守りたいと思ってい 右馬佐は帰りがたくなり、 虫好きでさえなければなぁ。惜しいなぁ。) 確かに知らない男が覗い ていると聞 草の汁でまた手紙を書く。 くとようやく ます」 毛虫

ずに 「世間一般の人と異なる私の心は、 ぶやいた。 この歌を見た右馬佐は 手紙を読んだ女房たちが姫君の恥ずかしい姿を人に見られてしまったと嘆く。 でしょう」と笑い、帰っていった。 「悟りを開けば何も恥ずかしくない。 右馬佐がずっと返事を待っているので、 「毛虫のようなあなたの眉毛の毛先ほども、 あなたの名前を聞いてから明かそうと思います。」 永遠に変わらない価値なんかないんだから」 見かねた女房が返歌の代筆をした。 あなたに敵う人は は動じ 5 0

24

――このお話の続きはきっと、第二巻にあるでしょう。

て面白いだろうな。 ち込んだ。 いていなかった私でも何となく覚えている。これほど有名な物語だから、きっと色んな考察が 「虫愛づる姫君」 というのも、 は そう思ってうきうきしながら色々な資料を読み比べ、 姫君の矛盾点や異常を取り上げるものがとても多か ・納言物語』 0) 中で最も有名な話だ。 高校生の頃に全く古文の授業 ものの数時間で私は落 0 たからである。 あっ 心を聞

早に書くと以下のような感じだ。

- 視し 物ごとの ている。 移り変わりを重視すると言いながら、 幼虫を愛でるのは成長したくない 幼虫である毛虫にばかり注目 という気持ちの表れである。 蝶を
- 美しいものだけを愛でるなと言いながら、 贈られた偽物の蛇に恐怖を感じて い
- 風習に 反 抗しながら、「女と鬼は人前に出ない方が良い」と姿を隠し ている。
- 恥ず 逃げ 込んでい しいことは何もないと言いながら、 る。 行動が一貫してい ない。 右馬佐に見られていることを知って家の中 破綻がある。

25

に行動が一貫していな という気持ちの表れ」「こんなに異常な振る舞いをしたからには確固たる考えがあるはず。 かるのだが、 ンだ!」などと難癖をつけたいわけではない。 などなど。もちろん今ここでこれらを一つずつ取り上げて「○○先生の□□ か。ただ虫を愛でただけで、一人の女性、一 λ ! ただ、 と思ってしまった。 ああ、 破綻がある」 なんか、 めちゃくちゃ落ち込む……と思った。だって落ち込むでは と言われることに、 人の人間が ロジカルな説明で、とてもよくわかる。 考察とか批判とか抜きで、 「幼虫を愛でるの という指摘は は成長したくない なんと 1 なの かる

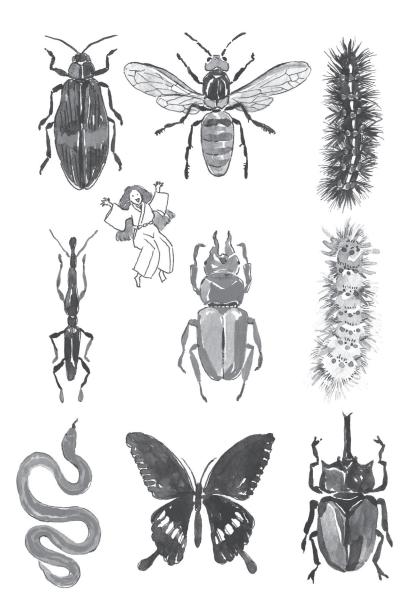
は私 0 直 感的・ 希望的想像だが、 「虫愛づる姫君」 は 別に普通の女の子ではな い か

n

るほど特別 ま受け入れようとしないし、 と矛盾を暴 のだろうか。 に虫が好きで、 てお ではない 先輩女房は全面的に理解を示してくれるし、 るが 物ごとの移り変わりに興味があるだけの一 0) にと嘲笑し、 同世代は姫君に少なからず否定的だ。 受け入れられない原因は姫君の方にあると考えている みんな彼女の思想を矮小化する。 右馬佐は、 彼女の思想はどうせ辻褄が合っていないだろう、 両親も価値観が合わないなりにそっ 人の女の子でいることは、 若い け 女房たちは、 して虫愛づる姫君をそのま 自分で思ってい 許されな

だって も見てみた になるくらいなんだから他 きな勉強を 確か どんなシチュ 識が足りず経験 に姫君の言動には不可解なところがある。 誰も何もできないではない 「変わったことをやり いな) してはい エ と思うことに大義名分が要るのだろうか。 け ショ いのだろうか。 ン のものも何か別のものになるんだろうな。おもしろ~ たければ最初から完璧な理論を用意しなければいけない」 でエンカウントしても堂々と対峙しなければならないだろうか のであれ か。 (わし、 ば 色々やってみながら精度を高めてい 毛虫が蝶になるのって不思議だな~。 しかし、 完璧な理由がなければ好きな服装と好 ひとたび虫が好きだと言っ けば良 毛虫が蝶 というの てしまえ っと他の はずだ。 b

真理を追い求め、 姫の言動で私が違和感を感じるのは、 尊重するべきこととあまり気にかけなくていいことを精査しようとする彼女 「女と鬼は人前に出ない方が良い」という台詞だ。 5 0



のを それ 5 人々 せなけれ 理由は簡単に想像 を説得するのは難 Ļ ば誰かを不快にさせることも、 息を潜 というイ ができる。 めて窮屈にして メー じい。 鬼が現 ジ 最初 はどこから出 ħ 5 か れば平 1.ら人々 たら人々は驚 討伐 てきたのだろう。 に見つ 和 に暮ら され ることもない からないように気をつけた方が安全だ。 5 せるのだ。 て危険を感じ、 女と鬼。 鬼は行きたい場所、 退治 鬼が しようとする。 人前 1= な 5 混乱

てな 強制 姫君 は 得しようとか、 出さずに することはなく、 0 はいつも体を張 のように人々の心をかき乱 彼女は自分の信念を曲げ 逃走した。 わざと目立とうという気はない。 せ って風習と 無意識の行動だ ぜ 5 ・虫に過 いう 剰反応しないでほし  $\nu$ ないために身を隠したのだ。 してしまう。 ったかも ギュ レーションを破壊しようと しれ 右馬佐に見られ 彼女は両親にも女房にも虫捕りやすっ ないが、自身の生き方の表れ いと頼むくら たと知った時、 いだ。 だ。 L T い それ 3 が 姫君 である虫 でも姫君 大 には毛 U° 0) 虫を の行 h を

ž 0 0 5 気持ち ることでも を受ける もわかる。 は十数年間こ 0 ない かを少し知ってしまっ 私 ただ虫を愛し、 の目的は、 0) 世界で暮ら 見知らぬ男性に自分の意見を通すことでも、 たのだろう。 物ごとの成り立ちを知り した経験によっ 騒ぎになったら虫を観察できない。 て、 何をす たい n だけなのだ。 ば どん なこと それ 両親 かず 起 なら をわざと それに

な女」 て姿を隠してあげよう。 は人前に出 ない方が良い。 ややこし 彼女はそう考えてい いことになる前 に退散 たのかも しよう。 しれない。 鬼と「鬼の ように イ  $\nu$ ギ ユ ラ

と触れ できたかもしれない。 ような目に遭 案外そうで とは あ ń 意気投合できたかも それな 5 二 5 ッ n クネ んるだけ は この「虫愛づる姫君」はどこか遠く離れ なか 0 0) 虫愛づる姫君がほんとうに鬼のようにイ てい に姫君たちはただただ概念として存在している。 ムや の謎 ったのではないかと思う。 る女の子たちを指 蝶だ 0 「右馬佐」 隣人、 しれない。 0 て虫であ 蝶愛づ という固有名詞が与えられ、「the」と特定できるよう扱わ ある してい る姫君にも。 5 虫愛づ るか は、 ご近所に住む蝶愛づる姫君と仲良くなること のように。もしも舞台が る姫君には名前がない。 彼女を取 た場所に住む別の「虫愛づる姫君」と レギュラーな存在だっ り巻く まるでこの世界に点在 人物には 現代なら、 物語 たか 「けらを」「兵衛」 の冒頭 ૃ イ 5 ż ンタ して同 いでちら ٤ 1 ネ 知 h ッ

する一人の女の子だった。 に彼女をカテゴラ 「虫愛づる姫君」 は、 1 ズした 別に、 のだ。 オフライ 騒ぎ立てるほど異質ではなかった。 ンで彼女に関 わ 0 たせ 5 ぜ い数十~ 好きな勉強をして好きな格好を 数百人の人たち が 勝 丰

ところで、 と締められ 恋とい T 5 ż る b が Ō 実際には二巻は残され は常に生まれ なけ n ばなら てい な な 5 い。 ものだろう 作者 かゞ スト か ح IJ 1 0) 物語 12 余白を作る は 0) 巻 め

に、存在しない続編を仄めかしたのだろうと言われている。

と思う。 そこには重きを置いていない なのにも るよう ない どんな結末でも読者が自由に想像して良いのなら、 ことを意味して T に見える 右馬佐は姫君 T 0 たいない ること、 ようと、 が す そ そして姫君の涼 いる。 ぐ後に の外見に戸 もそも のだ。 顔が整 右馬佐の価値観に照らし合わせると、 「虫好きでさえなけれ この 、惑いながら これを現代に置き換えると結構ひどいのではないか。 0 「たられば」 ていることが女性の必要条件となるのだ。 げで魅力的な雰囲気がその探究心から湧き出てい も惹かれ は、 ば」「もっと見た目をちゃ れている。 私は姫と右馬佐に恋が生まれなけ 右馬佐が今はまだ自分の 二 ュ 化粧をし トラル T に彼女を評 価値観を見直 んとしたら魅力的 「女らし 姫君がどれ 価し 5 n ば ほど 身な 一す気 てい b

30

LINE 然関係ない傍観者に分析され、 じろじろ見ら がらせをされ、 興味のあるものに夢中になって好きなように暮していたら、 が届く。 と文句を言われ、 n しかもその男は「化粧したらかわいいのに惜しい 73 キ でもその嫌がらせに返事をしなければならず、 モ ので逃げると「うわ 見ず知らずの男から「お前の探究心はどうせ中途半端なものだろ」 当の男からは恋を示唆して 2 逃げた。 やっ いるとも馬鹿にしているとも取れる 身近な人たちから「カシコ ぱり生半可な覚悟なんだ」 返事をしたら余計に絡まれて とか言ってる。 ぶっ



れる。 たんだ」という具合に、「ナメ」が「青春のエモみ」に包まれて、うやむやになっていく。 の目覚めとか、そういう意味を持たされてしまう。「スカートめくりしてごめんな、でも好きだっ んすぎるし、 もしもこの内容が友達からの相談であれば、私は「好きだって言ってるつもりならとんちんか あたかも良いもののように見えてしまう。 ナメてんのか!? 馬鹿にしてるなら許さん」とコメントする。惜しいってなんやねん。何も惜しくな だけどこのシチュエーションがボーイ・ミーツ・ガールとして展開 埋もれた少女の魅力に少年が気づいたとか、

り、 n は決まったシナリオのない現実世界でも同じである。 二の巻の内容は誰にも分からない。何も決められていないから、 ナメられたままでいなくてもいい。虫愛づる姫君はこれから先、どうなってもいいのだ。そ 無理やり恋愛に落とし込んだ

たら、 者と出会って超意気投合するとか。 した虫に立ち向かっていくとか。 を突き合わせて話してみようという気になるかもしれない。 数日後、 今度は泣かす。 右馬佐が 「この前はごめん。 もっと突飛な展開でもいい。例えば、 蝶愛づる姫君と仲良くなって二人でフィールドワークの旅 はたまた、 俺にも虫について教えて」と訪ねてきたなら、 姫君自身が昆虫博士になって、突然変異で巨 もしもまた蛇のカラクリを贈ってき 虫の研究を続けているうちに生物学 今度は顔 大化

そんな風に二の巻のストーリーを無限に想像しながら、 私は空白のページをめくる。 分

## はらだ有彩 著

## 『日本のヤバい女の子』

2018年5月末発売予定 本体1400円(予定) ※オリジナルの本はカラー

## はらだ有彩 Arisa Harada

関西出身。テキスト、テキスタイル、イラストレーションを作るテキストレーター。 デモニッシュな女の子のためのファッションブランド《mon.you.moyo》代表。 これまでに、「アパートメント」「リノスタ」「She is」にエッセイやマンガを寄稿。 Twitter: @hurry1116 Instagram: @arisa harada



本書『日本のヤバい女の子』は、

日本の民話や古典を、登場する女性たちの心情に寄り添いながら、 大胆かつファンキーに読み解く新感覚のイラストエッセイです。

イザナミ、乙姫、かぐや姫、虫愛づる姫君、皿屋敷・お菊――。 著者のはらださんは、物語の中で役割をまっとうする彼女たちに 思いを巡らし、対話し、友情を結ぼうとします。 まるで、その役割から彼女たちを解放したいんだ!という風に。

このお試し用冊子では、3人の「ヤバい女の子」にまつわるエッセイを収録しました。 5月末刊行の『日本のヤバい女の子』も手に取っていただけたら幸いです。



## レビューを投稿した方に サイン入り書籍プレゼント!

InstagramかTwitterで感想をご投稿いただいた方の中から10名様に、 著者のはらだ有彩さんのサイン&イラスト入りの『日本のヤバい女の子』を差し上げます。

期間:2018/4/16~2018/5/24

内容:ハッシュタグ「#ヤバい女の子」といっしょにご投稿ください。

※当選者には、5月末日までに柏書房公式アカウントからご連絡いたします。

※いただいた一部のコメントをホームページや広告、SNS等でご紹介させていただきます。



## 書店様・メディア関係者方へ

※ネットギャリーは会員登録が必要です。

柏書房のホームページでも本冊子の内容を ご覧いただけます。 また、ゲラ読みサービス「ネットギャリー」で 全文ゲラ(校正前)をダウンロード可能です。

お問い合わせ先は 柏書房 編集部・竹田 03-3830-1894 (編集部直通) / takeda@kashiwashobo.co.jp